

中学生、高校生に対する麻しん・風疹混合ワクチンの接種が終わります。

2012.06.06

函館市内近郊では、インフルエンザの流行が終わりました。運動会の前後から喉が痛くなったり、高熱が出たりという症状を訴えるお子さんが多くなりました。喘息の発作で受診するお子さんもいて、小児科は少し忙しいです。

はしかは昔から「命定め」と言われ、ワクチンが本格的にはじまる昭和 53 年以前では多くの子供がはしかのために命が奪われました。また命を失わなくても、数年以上経ったあとに亜急性硬化性全脳炎という重篤な症状を出し、子供の普通の生活を奪ってしまいます。こういった子供の生活を奪う、はしかという感染症から守るために 2006 年からそれまでの 1 回接種から 2 回接種に変更になりました。中学 1 年生、高校 3 年生に対する 2 回目の接種は平成 20 年から 5 年計画で始まり、今年平成 24 年度を持って終了します。

これまでの接種率調査では 1 歳前後で行う第 1 期、小学校入学前に行う第 2 期の接種率は 90%以上を保っており地域で流行を防ぐと言われる 95%にかなり近くなっていますが、中高生に行う第 3 期、第 4 期では 80%以下で、特に北海道は接種率が最低ランクでひとたび流行が始まれば多くの子供がまたはしかの犠牲になる可能性が十分考えられます。

2 回接種が始まり日本国内では流行がかなり減りました。今年麻疹にかかった人をみると、15 歳以下は全例ワクチン未接種者で成人の方もその多くはワクチン未接種者でした。また、海外渡航により麻しんが国内に持ち込まれているのが現実ですので、麻しんワクチンを打ったことがなくて海外旅行に行くのはとても危険なことです。

現在日本で打てるワクチンは、海外で流行しているものにも対応できるものです。対象のお子さんに無料でワクチンを打つチャンスは今年が最後で、これを逃して必要とされた場合には概ね 1 万円程度の実費が必要です。あなたの子供の大切なのちを守るために忘れずに接種を受けて下さい。